



学校を開き、生徒の未来を拓く

□ これからの部活動

放課後、運動場や体育館から生徒の元気な声が響いてきます。美術室では、黙々と作品制作に取り組んでいる生徒の姿も見ることができます。部活動で自分の好きなことに取り組む生徒の姿は、本当に生き生きと輝いていて素敵です。

中体連夏季大会に目を向けると、本巣ブロック大会が早い種目では6月25日から始まります。2年前は新型コロナウイルス感染症によって、大会自体を中止せざるを得ませんでした。練習の成果を発揮する大会が開催されることに感謝の気持ちをもち、自身で、そして仲間とともに精一杯の力を発揮してもらいたいと願っています。

さて、部活動（特に運動部活動）ですが、現在そのあり方を様々な理由から見直そうという動きがあります。例えば、少子化が進んでいることにより生徒数は減少していますが、部活動数に大きな変化がないため、部員数が確保できないこと。これによって大会出場だけでなく、日々の練習に支障が出てくることもあります（本校の野球部は他校と合同チームで活動することにより、たくさんの有益な体験を積んでいます）。教職員に目を向けると、休日等の部活動指導が長時間勤務の要因の一つになっています。また、担当する部によっては、経験のない種目の顧問を務めなければならないことによる負担感もあります。

このようなことから、スポーツ庁等は「令和5年度以降、休日の部活動の段階的な地域移行を図るとともに、休日の部活動の指導を望まない教師が休日の部活動に従事しないこととする」とする方針を示しました。その概要は右図にあるとおりです。

本校ではこの方針を生徒の側から考えてみました。生徒にとっては、地域移行を進めることによって、専門的知識等を持ち合わせた指導者（部活動指導を希望する教師を含む）から指導を受ける機会が増えます。当然、種目経験のない教職員が指導するより活動の質が上がるのが想像でき、大きな満足感を得ることができると考えられます。また、学校だけでなく、地域のスポーツや文化活動ができる環境が整えられることによって、活動の幅や機会が増える可能性もあります。

一方で保護者の負担が今より大きくなる可能性もあり、活動費用を含めた国や地方の支援が課題となります。

このことは5月に開催した「部活動育成会運営委員会」でも話題としました。生徒にとって魅力のある部活動にしていくために、よい知恵があればいつでもよいのでお話しくださいと、育成会長さんやコーチの皆さんにお願いをしたところです。

私は15年くらい前に、サッカーの岐阜県選抜の選手を率いてオランダに遠征したことがあります。オランダでは地域ごとに芝のサッカーグラウンドがあり、学校を終えた子どもたちがクラブチームでサッカーに取り組んでいます。その姿を保護者だけでなく、地域の老若男女がクラブハウスに集まって、ワイワイと飲み食いしながら楽しく見学します。スポーツが生活に溶け込み、文化として成立している素敵な光景だと思ったことを覚えています。

学校の働き方改革を踏まえた部活動改革 概要

部活動の意義と課題

- ✓ 部活動は、教科学習とは異なる集団での活動を通じた人間形成の機会や、多様な生徒が活躍できる場である。
- ✓ 一方、これまで部活動は教師による身体的な勤務の下で成り立ってきたが、休日を含め、長時間勤務の要因であることや、指導経験のない教師にとって多大な負担であるとともに、生徒にとっては望ましい指導を受けられない場合が生じる。
- ✓ 中教審答申や給付法の国会審議において「部活動を学校単位から地域単位の取組とする」旨が指摘されている。

持続可能な部活動と教師の負担軽減の両方を実現できる改革が必要

改革の方向性

- ◆ 部活動は必ずしも教師が担う必要のない業務であることを踏まえ、部活動改革の第一歩として、休日に教科指導を行わないことと同様に、休日に教師が部活動の指導に携わる必要がない環境を構築
- ◆ 部活動の指導を希望する教師は、引き続き休日に指導を行うことができる仕組みを構築
- ◆ 生徒の活動機会を確保するため、休日における地域のスポーツ・文化活動を実施できる環境を整備

具体的な方策

I. 休日の部活動の段階的な地域移行（令和5年度以降、段階的に実施）

- 休日の指導や大会への引率を担う地域人材の確保
(育成・マッチングまでの民間人材の活用の仕組みの構築、兼職兼業の仕組みの活用)
- 保護者による費用負担、地方自治体による減免措置等と国による支援
- 拠点校（地域）における実践研究の推進とその成果の全国展開

II. 合理的で効率的な部活動の推進

- 地域の実情を踏まえ、都市・過疎地域における他校との合同部活動の推進
- 地理的制約を越えて、生徒・指導者間のコミュニケーションが可能となるICT活用の推進
- 主に地方大会の在り方の整理（実態の把握、参加する大会の精選、大会参加資格の弾力化等）